

平成17年度繊維関連予算案の概要について

平成16年12月
経済産業省
製造産業局繊維課

平成17年度の繊維関連予算案は、約18億円（前年度比約3割増）となりました。

昨年7月、産業構造審議会繊維分科会において、いわゆる「繊維ビジョン」がとりまとめられたところ。17年度の繊維関連予算案は、この内容に沿ったもの。その概要は、以下のとおり。

1. 川中の構造改革の推進

(1) 中小繊維製造事業者自立事業の実施

〔繊維関係目的積立金〕

15年度から、中小企業総合事業団（現中小企業基盤整備機構）が、中小繊維製造事業者自立事業を実施。同事業は、厳しい状況に置かれているものの、自ら、商品の企画、開発、生産、販売を行い、活路を切り拓く意欲と能力のある中小の繊維製造事業者に対し、助成を行うもの。

15年度は総額約30億円、16年度は総額約50億円を助成。17年度は、より効果的な執行を通じて、川中の自立を更に加速させる。

(2) 中小繊維製造事業者が行う展示会事業等への支援

〔地場産業等活力強化事業費補助金（11.9億円）の内数〕

地場産業等活力強化事業費補助金を積極的に活用し、中小繊維製造事業者が行う展示会事業等への支援を行う。繊維関係の事業については、15年度は約4億円、16年度は約5.6億円を充当。17年度も、16年度に引き続き、国からの直接補助の下、支援を行う。

(3) SCM（サプライ・チェーン・マネジメント）の推進

〔中小企業基盤整備機構運営費交付金（41百万円）〕

比較的安価なシステム投資等により情報共有や企画、開発、生産、販売の一体的なマネージメントを実現する情報化モデル事業の支援と、その成果の普及を行う。

() 地場産業等活力強化事業費補助金及び中小企業海外展開支援等事業については、繊維関連予算が内数となっていることから、およそ16年度予算と同規模を見込んで計上。

2. 輸出振興の強化

〔 中小企業海外展開支援等事業（7.0億円）の内数
地場産業等活力強化事業費補助金（11.9億円）の内数 〕

17年度は、16年度に引き続き、テキスタイル、アパレルそれぞれの海外展示会（上海）において、我が国の繊維産業が一丸となった出展（ジャパン・パビリオン）を実現し、その他の海外展示会も支援するとともに、ニューヨーク、上海等にコーディネーターを配置する。さらに、一層商談につなげる工夫を凝らすことを検討する。

3. ファッション・クリエイション力の強化

〔 地場産業等活力強化事業費補助金（11.9億円）の内数
中小企業海外展開支援等事業（7.0億円）の内数 〕

我が国のファッション・クリエイション力強化のため、
国内展示会（インターナショナル・ファッション・フェア、ファッション・プロデュース・ビジネス・フェア、ファッションウィーク）
海外展示会（ジャパン・ファッション・パビリオン）
新人デザイナーの発掘（新人デザイナー・ファッション大賞事業）
新人デザイナーの育成（優れた技術を有するメーカーとの連携による海外展開事業）

を相互に有機的に連携させつつ推進。

4. 技術開発支援の強化

〔 石油及びエネルギー需給構造高度化対策特別会計
石油及びエネルギー需給構造高度化勘定（9.0億円） 〕

先行的に実施しているプロジェクトに加え、17年度は、さらに新規の技術開発支援を行う（別紙参照）。また、地域新生コンソーシアム研究開発事業等の提案公募型の技術開発事業を積極的に利用する。

5. 人材育成の効果的な実施

〔 中小企業基盤整備機構運営費交付金（62百万円）等 〕

中小繊維製造事業者が自立し、自らマーケットに販売していくために必要な高度専門人材（マーチャンダイザー、パターンナー等）を重点的に育成する。研修内容は、産地の特徴を反映し専門的分野に特化した内容とする。

なお、製造現場の中核人材の育成・強化に向け、ものづくりのベテランの技やノウハウを若い世代に受け継がせていける拠点を整備するため、産業界と大学等が連携して必要な知識・スキルの体系化、教育プログラムの開発、現場実習を行う取組を支援する。〔製造現場の中核人材の強化（23.7億円：新規）の内数〕

〔参考〕絹需要振興に係る概算要求（29百万円）

技術開発プロジェクトの概要

1. 高機能ファイバー創成ナノ加工技術開発事業(68百万円)

繊維の内部構造をナノレベルで制御する技術を開発することにより、次を開発。

- (ア) 強度や発色性を損なわずに画期的な軽量化を実現する超軽量繊維
- (イ) 吸湿性と撥水性が両立し、優れた湿度調整機能を発揮する環境対応自己調節機能繊維

予算総額(予定)：319百万円(4年間)

2. 超臨界二酸化炭素テキスタイル加工技術開発(400百万円)

超臨界状態の二酸化炭素を溶媒として利用することで、従来の水を利用する方法ではできなかった次の加工を可能とする。

- (ア) 難染色性繊維であるポリプロピレン等の染色
- (イ) キチンの付与によるヘルスケア機能等の新たな機能加工

予算総額(予定)：630百万円(3年間)

3. 光干渉繊維の用途技術開発(55百万円)

光干渉繊維は、染色せずとも独特の干渉色を持ち、衣料、塗料や化粧品などへの用途拡大が期待されるが、現状では糸が太いこと等から、塗料や化粧品としての使用時に違和感があった。そこで、細い光干渉繊維の製造技術等の開発を行い、ファッション性のある衣料や塗料、化粧品への用途拡大を図る。

予算総額(予定)：150百万円(3年間)

4. 密閉処理浴中の薬剤反応・吸着の定量化装置の開発(55百万円)

密閉容器中での染色や機能性加工については、その進行過程が定量化されておらず、処理時間を安全サイドに考えて長めに設定している。この処理を定量化する装置を開発することにより、無駄な処理時間を排除し、効率的な加工及び大幅な省エネルギーを図る。

予算総額(予定)：150百万円(3年間)

5. エネルギー使用合理化繊維関連次世代技術開発(新規 80百万円)

繊維を利用した製品の製造等に係るエネルギー使用を合理化する技術を開発する。

6. 活性炭の高性能化技術開発(新規 70百万円)

炭素素材に対する前処理技術(高温ガス処理、薬剤処理)を応用して、活性炭の最適賦活・精製技術を開発し、キャパシタ向け活性炭の高性能化を図る。

予算総額(予定)：300百万円(3年間)

7．繊維型DNAチップを利用した遺伝子検査・診断トータルシステムの開発
(新規 113百万円)

試料の調製からDNAチップのハイブリダイゼーションまでの操作をシステム化し、高信頼性、易操作性、迅速性を兼ね備えた遺伝子検査・診断のトータルシステムの開発を行う。

予算総額(予定)：333百万円(3年間)

8．アクリル樹脂製造エネルギー低減技術の研究開発(新規 55百万円)

工業生産レベルで実用可能なアクリル樹脂のリサイクル技術を開発する。

予算総額(予定)：200百万円(3年間)

*なお、精密高分子技術プロジェクト(高強度繊維)として、汎用繊維から、現行の2倍の強度を有する繊維を2倍以下のコストで製造する技術を開発(6.6億円の内数)